

講義コード	2E067011
講義名	英語表現法Ⅲ
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1304
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 仁志	指定なし

目的

- (1) チーム医療の担い手として、多様な人々と協調・協働する際に必要となるコミュニケーション・ツールとしての英語力を、会話を中心に実践を通して身につけること。
- (2) 医療現場での英語によるコミュニケーションを想定して、用語の習得を中心に医療英語の基礎を身につけること。
- (3) 1年次の医療英語の総復習を行い、応用力を身につけること。

到達目標

- (1) 身の回りのことに関する英語の文章や表現を理解して活用できる。
- (2) 英語での日常会話に自信を持てるようになる。
- (3) 一歩進んだ医学・医療関係の英語が理解できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

コミュニケーション能力／自己研鑽力

授業計画

* 授業は英語で実施する。日本語厳禁！

1. Scheduling a meeting
2. Taking and leaving a message
3. Discussing restaurants
4. Expressing preferences
5. Explaining your responsibilities
6. Inquiring about a part-time job
7. Getting help in a store
8. Comparing stores
9. Enjoying your stay abroad
10. Talking about Japan (Part 1)
11. Review of Medical English, Book 1 (1)
12. Review of Medical English, Book 1 (2)
13. Review of Medical English, Book 1 (3)
14. Review of Medical English, Book 1 (4)
15. Course review and consolidation III

成績の評価

授業内評価とする。すなわち、授業への積極的な取り組み、授業の理解度、会話の流暢さ・正確さ、会話で使用する語彙力で評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

Berlitz English for University Students, Book 2

Medical English, Books 1 & 2 (副教材)

講義コード	2E068011
講義名	英語表現法Ⅳ
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1305
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 仁志	指定なし

目的

- (1) チーム医療の担い手として、多様な人々と協調・協働する際に必要となるコミュニケーション・ツールとしての英語力を、会話を中心に実践を通して身につけること。
- (2) 医療現場での英語によるコミュニケーションを想定して、用語の習得を中心に医療英語の基礎を身につけること。
- (3) 医療英語についての応用力を身につけた上で、英語でプレゼンテーションができるようになること。

到達目標

- (1) 身の回りのことに関する英語の文章や表現を理解して活用できる。
- (2) 英語での日常会話に自信を持てるようになる。
- (3) 一歩進んだ医学・医療関係の英語が理解できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

コミュニケーション能力／自己研鑽力

授業計画

* 授業は英語で実施する。日本語厳禁！

1. Talking about Japan (Part 2)
2. Reporting situations
3. Staying at a hotel
4. Going sightseeing
5. Talking about your neighborhood
6. Describing your dream house
7. Review of Medical English, Book 2 (1)
8. Review of Medical English, Book 2 (2)
9. Review of Medical English, Book 2 (3)
10. Review of Medical English, Book 2 (4)
11. Presentations (1): Planning a presentation
12. Presentations (2): The opening
13. Presentations (3): The body
14. Presentations (4): The closing
15. Course review and consolidation IV

成績の評価

授業内評価とする。すなわち、授業への積極的な取り組み、授業の理解度、会話の流暢さ・正確さ、会話で使用する語彙力で評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

Berlitz English for University Students, Book 2

Medical English, Books 1 & 2 (副教材)

講義コード	2E069011
講義名	衛生・公衆衛生学Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	衛生・公衆衛生学
科目ナンバリング	E2-2202
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 宮本 邦彦	指定なし

目的

衛生・公衆衛生学は、人間集団の健康を現実の生活環境のなかで扱う学問であり、その内容は、社会の組織的な努力を通して、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康増進をはかり、生活の質を高く保つ実践活動とそのための知識や技術を高めることである。ここでは衛生的側面と公衆衛生的側面から健康をとらえ健康増進を図るための基本的な方法と疾病の成立条件や予防法を学ぶ。

到達目標

衛生・公衆衛生学の理論および疫学の方法論を理解し、実際に利用できるようになること。また、人々の健康に影響を及ぼす様々な環境因子や主な疾病の予防法を理解し、実践できる技能を身に着けること。
また、疾病対策として何が必要かを考えられるよになること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／専門知識

授業計画

1. 衛生・公衆衛生学の意義
2. 疫学1 疫学とは
3. 疫学2 コホート研究と症例対照研究
4. 疾病予防と健康管理疾病予防の段階
5. 疾病予防と健康管理健康増進
6. 生物的環境要因-微生物を中心に-
7. 中間試験
8. 主な疾病の予防 感染症の予防
9. 主な疾病の予防 国内の感染症
10. 主な疾病の予防 循環器系の疾患、糖尿病
11. 主な疾病の予防 脂質異常症、痛風
12. 主な疾病の予防 がんの予防、腎疾患、アレルギー
13. 主な疾病の予防 発達障害、認知症、フレイル、廃用症候群
14. 環境保健
15. まとめ

成績の評価

定期試験の成績 (45%)、中間試験成績 (45%)、提出物 (10%)を合わせて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を提示する。

自己学習

教科書をよく読んで、授業1コマにつき45分相当の予習と復習をすること。

履修上の注意

理解度を見るため中間試験を行う。配布資料は重要な項目であり試験題問に含まれるので整理して保管しておくこと。

テキスト

シンプル衛生公衆衛生学 2019 (南江堂) 監修：鈴木庄亮 編集：小山洋、辻一郎

参考資料

リハビリテーション (ハンドブック) 稲川利光 (Gakken)

講義コード	2E070011
講義名	衛生・公衆衛生学Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	E2-2203
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松本 健治	指定なし

目的

健康問題は感染症から生活習慣病と大きく変貌したが、わが国は世界最長寿国となった。このような健康をめぐる今日的課題の背景にある地域社会における各種の疫学的要因について、正確な知識が身に付くことを目的とする。

到達目標

公衆衛生学の考え方や疫学の方法論を体系的に理解することができ、医療に関する専門職としての意識をもち、将来の地域・職業生活に活かすことを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／専門知識

授業計画

1. ライフスタイルと健康
2. 疫学
3. 保健統計
4. 疾病予防と健康管理
5. 主な疾病の予防
6. 母子保健
7. 学校保健
8. 産業保健 (1)
9. 産業保健 (2)
10. 環境保健 (1)
11. 環境保健 (2)
12. 老人保健、地域保健
13. 精神保健
14. 国際保健、保健医療福祉の制度と法規
15. まとめ、これからの公衆衛生

成績の評価

筆記試験 (80%) と授業への取り組み度 (20%) で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

最終の授業時間に提出された課題とミニレポート (教員のコメント入り) を返却する。試験終了後 (試験期間終了後) に解答を配布する。

自己学習

学習内容の理解度を深めるため、講義の復習と1週間前に配布した資料と教科書で予習することが肝要。授業1コマにつき90分相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「シンプル公衆衛生学2019」（南江堂）
1週間前に講義内容の抄録と関連資料を配付します。

参考資料

「国民衛生の動向2019/2020」（厚生労働統計協会）

オフィスアワー

開講時限の前後休憩時間

研究室・授業用E-mail

講師控室

講義コード	2E073011
講義名	加齢医学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	E2-2213
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 紀平 為子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

紀平為子

目的

超高齢社会である日本において、年齢を重ねても健康で生き生きとした生活を継続することは人々の願いであり、医療の重要課題である。とりわけ認知症や脳血管障害、パーキンソン病などの神経変性疾患、および骨粗鬆症、転倒などへの取り組みは介護予防のためにも極めて重要である。さらに健康長寿を達成する上で高血圧症、糖尿病、脂質代謝異常などの生活習慣病への対策と予防が求められている。本科目では、加齢に伴う生理的、身体的、精神的変化ならびに高齢者特有の疾患を理解し、高齢者に対して健康増進と日常生活のQOL向上をはかるため適切な介入や指導が行える医療者の養成を目的とする。

到達目標

加齢に伴う生理的、身体的、精神的変化ならびに高齢者特有の疾患を理解し、高齢者に対して健康維持・増進と日常生活のQOL向上をはかるため適切な介入・指導が行える。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床的推論力

授業計画

1. 高齢社会と加齢医学、加齢の機序
2. 生理的老化と病的老化
3. 高齢者の病態と疾患の一般的特徴
4. 認知症をきたす疾患
5. 意識障害・せん妄・失神
6. 歩行障害と運動生理
7. 嚥下障害と誤嚥
8. 高齢者に多い神経疾患 1
9. 高齢者に多い神経疾患 2
10. 高齢者の脳血管障害
11. 高齢者の栄養と消化器疾患
12. 高齢者に多い呼吸器疾患
13. 高齢者に多い感染症・免疫・膠原病
14. 高齢者に多い腎・泌尿器系疾患
15. 高齢者の生活機能障害の評価と介護・医療

成績の評価

定期試験にて評価する。
定期試験、レポート等に対するフィードバック
定期試験後模範解答を開示する。
自己学習
加齢と高齢社会について多方面から情報収集し、情報の整理と理解をすすめ、問題意識をもって講義に臨むこと。授業1コマにつき45分相当の予習と復習を行うこと
テキスト
特に指定しない。
参考資料
「老年医学テキスト 社団法人日本老年医学会 編」 (MEDICAL VIEW)
オフィスアワー
月曜日 12:30～13:00
研究室・授業用E-mail
診療・研究棟4階408研究室 tkihira815@kansai.ac.jp

講義コード	2E099011
講義名	基礎運動学Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	人体の構造と機能及び心身の発達
科目ナンバリング	E2-2108
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 藤井 啓介	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

藤井啓介〔作業療法士〕
 木村大介〔作業療法士〕
 大歳太郎〔作業療法士〕
 備前宏紀〔作業療法士〕
 吉弘奈央〔作業療法士〕

目的

本科目では運動学各論として、上肢・下肢・体幹の関節構造を理解し、各関節における運動メカニズムの原理と特性を理解すること。

到達目標

1. 各関節の構造と運動が理解し説明できるようになる。
2. 各関節における病的メカニズムが理解し説明できるようになる。

授業計画表

回	時限	担当教員	項目	内容
第1回	3時限	藤井啓介	肩関節①	骨，軟部組織，筋
第2回	3時限	藤井啓介	肩関節②	関節構造，運動特性
第3回	3時限	藤井啓介	肩関節③	病的メカニズム
第4回	3時限	藤井啓介	肘関節①	骨，軟部組織，筋
第5回	3時限	藤井啓介	肘関節②	関節構造，運動特性，病的メカニズム
第6回	3時限	藤井啓介	手関節	骨，軟部組織，筋，関節構造，運動特性，病的メカニズム

第7回	3 時 限	藤井 啓介	手指 ①	骨, 軟部組織, 筋
第8回	3 時 限	藤井 啓介	手指 ②	関節構造, 運動特性, 病的メカニズム
第9回	3 時 限	藤井 啓介	股関 節①	骨, 軟部組織, 筋
第10回	3 時 限	藤井 啓介	股関 節②	関節構造, 運動特性, 病的メカニズム
第11回	3 時 限	藤井 啓介	膝関 節①	骨, 軟部組織, 筋
第12回	3 時 限	藤井 啓介	膝関 節②	関節構造, 運動特性, 病的メカニズム
第13回	3 時 限	藤井 啓介	足関 節①	骨, 軟部組織, 筋
第14回	3 時 限	藤井 啓介	足関 節②	病的メカニズム
第15回	3 時 限	藤井 啓介	脊柱	関節構造, 運動特性, 病的メカニズム, 骨, 軟部組織, 筋, 関 節構造, 運動特性, 病的メカニズム

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

成績の評価

- ・期末テスト8割, 小テスト2割

定期試験、レポート等に対するフィードバック

- ・定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

- ・解剖学, 生理学, 基礎運動学Ⅰの知識が基礎となる科目であるため, 該当科目の予習・復習を授業1コマにつき0.5コマ(45分)以上行って授業に臨むこと。
- ・小テストを実施し, 到達度を確認する。

履修上の注意

- ・受身ではなく能動的に受講し, 積極的に質問等を行うこと。

テキスト

- ・配布資料
- ・「基礎運動学」(医歯薬出版株式会社)

参考資料

- ・「筋骨格系のキネシオロジー」(医歯薬出版株式会社)

講義コード	2E100011
講義名	基礎運動学演習
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	人体の構造と機能及び心身の発達
科目ナンバリング	E2-2109
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 藤井 啓介	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

藤井啓介〔作業療法士〕
 木村大介〔作業療法士〕
 備前宏紀〔作業療法士〕
 吉弘奈央〔作業療法士〕

目的

本科目では運動学演習として、筋骨格の触診を通じて、解剖学・生理学の理解を深める。さらにその知識の応用した評価方法として、関節可動域測定、徒手筋力検査法を習得することを目的としている。さらに、対象者への説明、安全性への配慮、評価結果の解釈などについても考え、基本的技術の習得を目指す。

到達目標

1. 体表から正しく筋・骨格構造を説明できる。
2. 基本的な関節運動が起きる仕組みを説明できる。
3. 人体の運動を筋と結びつけて理解し説明できるようになる。
4. 関節可動域測定を適切におこなうことができる。
5. 徒手検査測定法を適切におこなうことができる。
6. 各検査法の結果を適切に解釈することができる。

授業計画表

回	時限	担当教員	項目
第1回	5時限	藤井 啓介	骨格の触診, 関節可動域測定①
第2回	5時限	藤井 啓介	骨格の触診, 関節可動域測定②
第3回	5時限	藤井 啓介	骨格の触診, 関節可動域測定③
第4回	5時限	藤井 啓介	骨格の触診, 関節可動域測定④
第5回	5時限	藤井 啓介	骨格の触診, 関節可動域測定⑤
第6回	5時限	藤井 啓介	骨格の触診, 関節可動域測定⑥
第7回	5時限	藤井 啓介	筋の触診, 徒手筋力検査法①
第8回	5時限	藤井 啓介	筋の触診, 徒手筋力検査法②
第9回	5時限	藤井 啓介	筋の触診, 徒手筋力検査法③
第10回	5時限	藤井 啓介	筋の触診, 徒手筋力検査法④
第11回	5時限	藤井 啓介	筋の触診, 徒手筋力検査法⑤
第12回	5時限	藤井 啓介	筋の触診, 徒手筋力検査法⑥

第13回	5時限	藤井 啓介	筋の触診, 徒手筋力検査法⑦
第14回	5時限	藤井 啓介	まとめ①
第15回	5時限	藤井 啓介	まとめ②

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

成績の評価

- ・期末テスト5割, 実技テスト5割

定期試験、レポート等に対するフィードバック

- ・定期試験終了後, 模範解答を開示する.

自己学習

- ・解剖学, 生理学, 基礎運動学Ⅰの知識が基礎となる科目であるため, 該当科目の予習・復習を授業1コマにつき0.5コマ(45分)以上行って授業に臨むこと

履修上の注意

- ・受身ではなく能動的に受講し, 積極的に質問等を行うこと.
- ・実習着(ケーシー)を着用して毎回授業に参加すること, また, 体表面の触診をおこなうため, 実習着の中には実習可能な服装を着用すること(短パン, 半袖シャツなど).

テキスト

- ・「新・徒手筋力検査法」(協同医書出版社)
- ・「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢」(メディカルビュー社)
- ・「運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹」(メディカルビュー社)

参考資料

- ・「骨格筋系のキネシオロジー」(医歯薬出版株式会社)

講義コード	2E181011
講義名	神経内科学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	E2-2209
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 若山 育郎	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

若山育郎（医師）

目的

神経疾患についての基礎知識を修得する

到達目標

神経疾患の概要を理解すること

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床的推論力

授業計画

1. 神経内科で診る病気
2. パーキンソン病(臨床症状)
3. パーキンソン病(病因、検査)
4. 脊髄小脳変性症
5. 筋萎縮性側索硬化症
6. Guillain-Barre症候群、CMT病、Bell麻痺
7. 進行性筋ジストロフィー
8. 多発性筋炎、筋生検
9. 多発ニューロパチー
10. 脳血管障害(脳出血)
11. 脳血管障害(脳梗塞)
12. 認知症
13. 認知症の脳画像
14. CT,MRIの基礎
15. 高次脳機能障害

成績の評価

筆記試験により評価する

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと

テキスト

特に指定しない

参考資料
特に指定しない
オフィスアワー
火曜、水曜 12:30-13:00
研究室・授業用E-mail
1号館205研究室 wakayama@kansai.ac.jp

講義コード	2E199011
講義名	整形外科学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	E2-2209
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 金本 成熙	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

吉田隆紀

目的

運動器疾患はADLの低下に直結する疾患であり、すでに世界一の高齢社会（今後もさらに進む）の日本においては、理学療法士が果たす役割は今後ますます増加するものと思われる。整形外科学は運動器疾患全般を保存的・外科的に治療する科であるが、理学療法士の協力無くしてはその治療が成り立たない。授業では整形外科学の基礎知識と各疾患の病態、治療法の理解を目的に講義する。

到達目標

運動器疾患の重要性を理解すること。整形外科学で扱う疾患の病態と治療法を理解の上、実際の理学療法の現場に役立つ知識を得ること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床的推論力

授業計画

1. 画像診断と生化学的検査所見の見方
2. 骨折の保存療法と手術療法
3. 軟部組織損傷の保存療法と手術療法
4. 肩関節の疾患
5. 肘関節の疾患
6. 手関節・手・指の疾患
7. 股関節の疾患
8. 膝関節の疾患
9. 足関節の疾患
10. 頸椎・胸椎の疾患
11. 腰椎の疾患・側弯症
12. 関節リウマチ
13. 末梢神経損傷
14. 末梢循環障害
15. 腫瘍

成績の評価

定期試験によって評価する。

自己学習

半期15回の授業のみで整形外科領域を全て学ぶには時間的余裕はない。学習範囲は広いので、事前にシラバスに沿ってテキストで予習をしていないと授業内容は消化不良となる。予備知識として解剖学・生理学・病理学的基礎知識は十分身につけているものとして講義を進める。大学生であるので、テキストで予習が済んでいる前提で、講義は重要な項目のみ解説を行っていく。授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は必修科目であるため、積極的に予習と復習を行なうこと。

テキスト

「標準整形外科学 第13版」(医学書院)

参考資料

「整形外科疾患ビジュアルブック」(学研)

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階305研究室(吉田)・t.yoshida@kansai.ac.jp

講義コード	2E286011
講義名	皮膚科・感覚機能医学①
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	E2-2214
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松中 成浩	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

平岡 政信

目的

（皮膚科学）目標に沿って鍼灸師として是非知っておかねばならない皮膚疾患にポイントを絞って講義を進めていく予定である。

（感覚機能医学）領域としては、耳科学、鼻科学、咽喉頭、気管、食道科学、更には頭頸部外科学等が含まれる。

到達目標

（皮膚科学）皮膚は最も目につきやすい人体最大の臓器であり、新生児期より老年期に至るまでの生理的变化と共に、自覚的にも他覚的にも早期からの病的異常所見の発見が最も容易な臓器である。特に鍼灸師は、体表の視診、触診により病変を把握する技術が必要とされるため、皮膚科的な知識は、きわめて重要である。また、鍼灸臨床においては、皮膚科的疾患の有無により鍼灸治療の適否も考慮せねばならない。

（感覚機能医学）医療従事者として必要な耳鼻咽喉科学の知識を習得せしめ、耳鼻咽喉科学を通して医療に対する考え方、接し方を理解させる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床的推論力

授業計画

（皮膚科学）

1 乳幼児から高齢者まで皮膚表面には年齢、生活環境、職業などによる種々な生理的、病的所見があり、他の診療科に比べ俗称或いは社会的に知られた皮膚疾患も多い。出生児の母斑、乳幼児や小児の疾患、感染症、癢痒性疾患、良性や悪性の皮膚腫瘍、薬疹、老人の皮膚の所見など鍼灸治療の臨床実習時などに見いだす事の多い皮膚症状をスライドで供覧する。

2 正常皮膚の構造と機能、皮疹の見方

3 皮膚疾患の診断のための検査と治療。全身ならびに局所治療、光線療法、凍結療法、レーザー療法、皮膚外科

4 接触皮膚炎、貨幣状皮膚炎、自家感作性皮膚炎、脂漏性皮膚炎

5 アトピー性皮膚炎 ・紅斑症、血管炎 ・薬疹、蕁麻疹

6 自己免疫疾患：エリテマトーデス、シェーグレン症候群、強皮症、皮膚筋炎、：天疱瘡、類天疱瘡 ・角化異常症：尋常性乾癬、掌蹠膿疱症、魚鱗癬 ・母斑、母斑症

7 老人性皮膚疾患、皮膚良性腫瘍 ・皮膚前癌症、皮膚悪性腫瘍

8 皮膚感染症：真菌、細菌、疥癬・皮膚感染症；ウイルス、性病、新薬とその効果

（感覚機能医学）

- 1 耳鼻咽喉頭の臨床解剖、耳鼻咽喉頭の生理
- 2 耳鼻咽喉科領域の検査法
- 3 耳疾患各論
- 4 鼻疾患各論
- 5 咽喉頭疾患各論
- 6 気管・食道疾患各論
- 7 頭頸部外科学論

(以上は主たる項目であり、内容は適時変更することがある)

成績の評価

(皮膚科学) ミニレポート・筆記試験の総合評価。

(感覚機能医学) 定期試験にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

(皮膚科学) 定期試験、レポートの解説を実施する。

(感覚機能医学) 定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマ当たり0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと

テキスト

(皮膚科学) 「あたらしい皮膚科学」(中山書店)

(感覚機能医学) 「イラスト耳鼻咽喉科」(文光堂)

参考資料

(皮膚科学)

「Fitzpatrick's Dermatology in General Medicine」(Mc Grow-NY)8thEd.、「Textbook of Dermatology」(Blackwell)7thEd.、「皮膚科診療カラーアトラス大系」(講談社)

(感覚機能医学)

「新耳鼻咽喉科学」(南山堂)

講義コード	2E286012
講義名	皮膚科・感覚機能医学②
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	E2-2214
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 平岡 政信	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

平岡 政信（医師）・松中 成浩（医師）

目的

（皮膚科学）目標に沿って作業療法士として是非知っておかねばならない皮膚疾患にポイントを絞って講義を進めていく予定である。

（感覚機能医学）領域としては、耳科学、鼻科学、咽喉頭、気管、食道科学、更には頭頸部外科学等が含まれる。

到達目標

（皮膚科学）皮膚は最も目につきやすい人体最大の臓器であり、新生児期より老年期に至るまでの生理的变化と共に、自覚的にも他覚的にも早期からの病的異常所見の発見が最も容易な臓器である。

（感覚機能医学）医療従事者として必要な耳鼻咽喉科学の知識を習得せしめ、耳鼻咽喉科学を通して医療に対する考え方、接し方を理解させる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床的推論力

授業計画

（皮膚科学）

1 乳幼児から高齢者まで皮膚表面には年齢、生活環境、職業などによる種々な生理的、病的所見があり、他の診療科に比べ俗称或いは社会的に知られた皮膚疾患も多い。出生児の母斑、乳幼児や小児の疾患、感染症、癢痒性疾患、良性や悪性の皮膚腫瘍、薬疹、老人の皮膚の所見など鍼灸治療の臨床実習時などに見いだす事の多い皮膚症状をスライドで供覧する。

2 正常皮膚の構造と機能、皮疹の見方

3 皮膚疾患の診断のための検査と治療。全身ならびに局所治療、光線療法、凍結療法、レーザー療法、皮膚外科

4 接触皮膚炎、貨幣状皮膚炎、自家感作性皮膚炎、脂漏性皮膚炎

5 アトピー性皮膚炎 ・紅斑症、血管炎 ・薬疹、蕁麻疹

6 自己免疫疾患：エリテマトーデス、シェーグレン症候群、強皮症、皮膚筋炎、：天疱瘡、類天疱瘡 ・角化異常症：尋常性乾癬、掌蹠膿疱症、魚鱗癬 ・母斑、母斑症

7 老人性皮膚疾患、皮膚良性腫瘍 ・皮膚前癌症、皮膚悪性腫瘍

8 皮膚感染症：真菌、細菌、疥癬・皮膚感染症；ウイルス、性病、新薬とその効果

（感覚機能医学）

1 耳鼻咽喉頭の臨床解剖、耳鼻咽喉頭の生理

2 耳鼻咽喉科領域の検査法

- 3 耳疾患各論
- 4 鼻疾患各論
- 5 咽喉頭疾患各論
- 6 気管・食道疾患各論
- 7 頭頸部外科学論

(以上は主たる項目であり、内容は適時変更することがある)

成績の評価

(皮膚科学) ミニレポート・筆記試験の総合評価。
(感覚機能医学) 定期試験にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

(皮膚科学) 定期試験、レポートの解説を実施する。
(感覚機能医学) 定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマ当たり0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと

テキスト

(皮膚科学) 「あたらしい皮膚科学」(中山書店)
(感覚機能医学) 「イラスト耳鼻咽喉科」(文光堂)

参考資料

(皮膚科学)
「Fitzpatrick's Dermatology in General Medicine」(Mc Grow-NY)8thEd.、「Textbook of Dermatology」(Blackwell)7thEd.、「皮膚科診療カラーアトラス大系」(講談社)
(感覚機能医学)
「新耳鼻咽喉科学」(南山堂)

講義コード	2E297011
講義名	病因・病態学Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	E2-2204
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 伊藤 俊治	指定なし

目的

疾患の発生と進行についての科学を病理学という。病因病態学とは病理学そのものである。本講義では人体の正常構造・機能がどのように異常を来し、疾患が発生していくかについて、正しい知識を身につけ科学的・体系的に理解することを目的とする。前期の講義では総論のうち、主に組織障害と修復、生体防御について概説する。

到達目標

基本的な身体の機能とその異常について科学的な説明が出来る。適応、炎症、免疫などの基本的な疾患のメカニズムを理解し説明できる。また将来の医療従事者として、疾患の診断・治療・予防について自ら習得できるような基盤を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床的推論力

授業計画

1. 病理学の基礎
2. 組織の障害と適応
3. 組織の障害と適応
4. 組織の障害と適応
5. 組織の修復と再生
6. 組織の修復と再生
7. 炎症
8. 炎症
9. 炎症
10. 炎症
11. 免疫系とその異常
12. 免疫系とその異常
13. 免疫系とその異常
14. 感染症
15. 感染症

成績の評価

試験で評価するが、必要に応じてレポートなどを課し試験評点の10%を上限に加点する場合がある。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。病理学を学ぶためには、生物学（生命のしくみ）、生化学（生命の化学）、人体の構造・機能などの知識が必須である。これらの講義の内容を復習・理解しておくこと。また、教科書の該当部分について、事前の予習を強く推奨する。

テキスト

標準理学療法学・作業療法学「病理学」（医学書院）と配付資料を使用する。

参考資料

「ロビンズ基礎病理学」（廣川書店）（図書館にあります）

オフィスアワー

随時。金曜午後を除く。実験・研究で部屋にいない場合もあるので、メールで連絡することをおすすめする。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4F 407研究室
itohshun@kansai.ac.jp

講義コード	2E298011
講義名	病因・病態学Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	E2-2205
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 伊藤 俊治	指定なし

目的

前期の病因・病態学Ⅰと同様である。後期の講義では総論のうち、主に感染症、先天性疾患と腫瘍について概説し、あわせて作業療法学に関連する疾患について各論の講義する。

到達目標

前期の病因病態学Ⅰと同様に、講義の範囲の基本的な疾患のメカニズムを理解するための知識を得る。また将来の医療従事者として、疾患の診断・治療・予防について自ら習得できるような基盤を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床的推論力

授業計画

- 1-2.総論：病因・病態学Ⅰの復習
- 3-4.総論：循環障害
- 5-6.総論：腫瘍
- 7-8.総論：腫瘍
- 9-10.総論：先天異常
- 11-12.総論：先天異常
- 13-15.各論：神経系・運動器

成績の評価

試験で評価するが、必要に応じてレポートなどを課し試験評点の10%を上限に加点する場合がある。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当相当の予習と復習を行うこと。前期の病因・病態学Ⅰの講義の内容を復習・理解しておくこと。また前期の病因・病態学Ⅰと同様、事前に教科書の該当部分について予習しておくことを強く推奨する。

テキスト

標準理学療法学・作業療法学「病理学」（医学書院）と配付資料を使用する。

参考資料

「ロビンス基礎病理学」（廣川書店）（図書館にあります）

オフィスアワー

随時。金曜午後を除く。研究で部屋にいない場合もあるので、メールで連絡することをおすすめする。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4F 407研究室
itohshun@kansai.ac.jp

講義コード	2E510011
講義名	医療英語
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1310
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 村木 敏明	指定なし

目的

作業療法士が臨床において、医療スタッフとのコミュニケーションのみならず、患者さんや利用者さんとのコミュニケーションに分かりやすく、理解していただくための医療英語の知識を身につけておく必要がある。本講義では、基礎的な医療英語の知識を深め、日常の臨床において使えることを目的とする。

到達目標

今まで学習してきた英語の知識を基に、作業療法士として必要な最低限の医療関連の英語の理解を目的とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

自己研鑽力／専門知識

授業計画

1. Excise and the Body : Staying Healthy
2. History of Rehabilitation, Physical Therapy and Physical Therapists
3. Occupational Therapy and Occupational Therapists, Speech Therapy and Speech Therapists
4. Fundamentals of the Human Body for Rehabilitation
5. The Structure of the Human Body(1): the Skeletal System
6. // (2): the Muscular System
7. // (3) : the Nervous System
8. Diseases and Rehabilitaion(1): Bone Frcture, Back Pain
9. // (2): Arthritis, Sports Injury
10. // (3): Spainal Cord Injury
11. // (4): Parkinson's Disease
12. // (5): Stroke
13. // (6): COPD
14. // (7):Dysphagia
15. // (8):Speech and Language Disorders

成績の評価

授業への出席 (10%) と積極的な発言とプレゼンテーションでの参加 (20%) と筆記試験 (70%)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

学習内容の復習（90分）と次回への予習（90分）が必要となる。

履修上の注意

講義のみでなく、グループ学習があるため、活発なディスカッションを行うコミュニケーション能力が必要となる。

テキスト

清水雅子著「リハビリテーションの基礎英語」第3版 メジカルビュー社

参考資料

WHOパンフレット「the training in the community for people with disabilities」

オフィスアワー

授業日の昼休み

研究室・授業用E-mail

4号館6階第2共同研究室

講義コード	2E801011
講義名	臨床疾患学（内科）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	E2-2206
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 別所 寛人	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

別所寛人

目的

臨床疾患学（内科）では、代表的な内科疾患の病態とそれに関連する症候・症状について解説する。本講義において習得した知識により、患者の病態の全体像を把握し、リハビリテーション実施に際しての正確な判断が行える能力を養うことを目的とする。

到達目標

内科疾患でみられる各種の病態と症状を理解し、必要に応じて医師と適切に連携できる人材の育成を目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床的推論力

授業計画

- | | |
|--------------------------------------|------|
| 1. 内科学とリハビリテーション | (別所) |
| 2. 症候・症状の把握①意識障害 | (別所) |
| 3. 症候・症状の把握②顔貌と体格 | (別所) |
| 4. 症候・症状の把握③運動失調と不随運動 | (別所) |
| 5. 症候・症状の把握④循環障害 | (別所) |
| 6. 身体各部の異常①眼、鼻、耳、口腔 | (別所) |
| 7. 身体各部の異常②胸部、腹部 | (別所) |
| 8. 身体各部の異常③四肢 | (別所) |
| 9. 疾患の概念と原因①遺伝・染色体異常 | (別所) |
| 10. 疾患の概念と原因②免疫異常（関節リウマチ） | (別所) |
| 11. 疾患の概念と原因③内分泌・代謝異常（糖尿病） | (別所) |
| 12. 疾患の概念と原因④内分泌・代謝異常（痛風、骨粗鬆症） | (別所) |
| 13. 疾患の概念と原因⑤物理的・化学的侵襲（火傷、凍傷、酸/アルカリ） | (別所) |
| 14. 疾患の概念と原因⑥生物学的侵襲（食中毒、性感染症） | (別所) |
| 15. 疾患の概念と原因⑦中毒 | (別所) |

成績の評価

到達目標に対する到達度を筆記試験により評価する。

自己学習

参考資料を授業で配付するので予習しておくこと。

テキスト

「標準理学療法学・作業療法学 PT OT 内科学」 (医学書院)

オフィスアワー

水曜日 12:30～13:00 (診療所診察室②)

講義コード	2E802011
講義名	臨床疾患学（外科）
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	E2-2207
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 喜馬 通博	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

熊野 公束・岩橋 秀明

目的

臨床の場においてチーム医療を実践する一員として、患者・家族とはもちろん職場同僚や他職種、とりわけ医師、看護師、他技師職等と疾患、病状の現症、回復状況、治療方針、治療のゴールに関して意思の疎通を図り、患者についての医療情報を共有しつつ、自らの役割を理解して技量を発揮できるよう、外科疾患に関する基礎知識を身につけること。

到達目標

日常一般的によく遭遇する疾患について、原因、症状、診断、外科的治療法を解説し、理解を求める。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床的推論力

授業計画

1. 脳卒中について
2. 脳神経外科 解剖
3. 脳神経外科 検査
4. 脳神経疾患の主要な兆候 1
5. 脳神経疾患の主要な兆候 2
6. 脳血管障害 1
7. 脳血管障害 2
8. 頭部外傷
9. 脳腫瘍
10. 脳神経外科 手術、その他
11. 頭頸部疾患
12. 甲状腺疾患・副甲状腺の疾患
13. 乳腺、胸壁・胸膜・横隔膜
14. 気管・気管支及び肺
15. 縦隔、心臓①
16. 心臓②
17. 血管
18. 食道・消化器総論
19. 胃及び十二指腸
20. 小腸および結腸

21. 直腸および肛門
22. 肝臓・胆道系および膵臓①
23. 肝臓・胆道系および膵臓②
24. 脾・門脈、副腎、後腹膜
25. ヘルニア、腹壁、臍
26. 急性腹症
27. 外科栄養学
28. 小児外科①
29. 小児外科②、高齢者外科
30. まとめ

成績の評価

定期テスト90%、小テスト10%を総合評価して判断する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

テキストを参考に要点を講義する。必要に応じプリントを配布し、理解しやすくなるよう配慮する。上記は目安であり、内容や順番の一部変更等あります。

テキスト

「NEW外科学 改訂第3版」（南江堂）

「脳神経疾患ビジュアルブック」（学研メディカル秀潤社）

参考資料

「標準外科学」（医学書院）

講義コード	2E803011
講義名	精神医学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	E2-2211
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 郭 哲次	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

医師、精神保健指定医

目的

近年、様々なメディアを通して「心の病」や「心身症」の増加、特にうつ病患者などの著しい増加が叫ばれるようになり、世界的にもメンタルヘルスへの関心が高まっている。一方からだや身体的疾病への、私たちの理解は少し深まったが「精神の病」についての理解には、著しい先入観や偏見が多く、十分であるとは言い難い。ここで、いま、医療人として「私たちは精神をどうとらえたらよいのか?」、「精神と身体にはどういつながりがあるのか?」、「健康な精神と病める精神は異なるものなのか?」のテーマに対してもう一度考え直し、<精神と身体の間生まれくる様々な困難や病>を概観しながら、『精神医学』について深く考える機会を持つ。これにより、医療人として基本的に身につけるべき『精神医学』を学ぶことを目的とする。

到達目標

健康人の心のあり方や基本的な精神の障害を十分に理解し医療に役立てることができる

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床的推論力

授業計画

1. 総論
2. うつは治りにくいのか? (気分障害)
3. 幻覚妄想はなぜ起こる? (統合失調症)
4. 不安は異常か? (神経症性障害)
5. 行動パターンの偏りは病気か? (成人の人格・行動の障害)
6. 主要な精神障害のまとめ
7. 身体の異常が精神の異常を引き起こすか? (器質性精神障害)
8. けいれん? ふるえ? (てんかんの知識)
9. アルコールの依存 (①物質⇒脳)
10. 薬物の依存 (②物質⇒脳)
11. 物忘れは異常か? (正常脳細胞の減少⇒認知・行動異常)
12. 児童・青年期の精神障害
13. 睡眠 (からだと脳のリズム)
14. 睡眠障害 他
15. 総まとめ

成績の評価

原則：試験（一部レポートを含む） %、授業への取り組み度 %、熱意のある積極的な取り組み必要。

ルール違反はすべて減点対象

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を提示する

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと

授業計画のタイトルの疾患について、各講義ごとに教科書でしらべ予備知識をもっておくこと（予習）。

授業中にプリントおよび教科書を自分用にカスタマイズすること（授業中）。

各講義ごとのプリント（講義内容の抜粋）を用いて復習を行うこと（復習）。

履修上の注意

この領域の予備知識や体験なく、未知の精神疾患を正しく捉えることは容易ではない。

教科書として使用するテキストは初学者にとっては比較的難解であるため事前に読んでその意味を考えておくことが必要である。このためにも、日々の新聞等、関連記事に注意を向け、参考文献に挙げたテキスト等により疾患の概略的予備知識を事前に持つておくことが望まれる

テキスト

「第3版 コメディカルのための専門基礎分野精神医学」（中外医学社）

参考資料

講義中に適宜紹介する

オフィスアワー

木曜日12時から約1時間（原則として、事前予約が必要）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階403研究室 tkaku@kansai.ac.jp （郭 哲次）

講義コード	2E807011
講義名	作業療法理論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎作業療法学
科目ナンバリング	E2-3102
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 和子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

作業療法士

目的

長い歴史をもつ作業療法実践においては近年、その経験則を理論として整理し、さらに新しい理論開発のための実践、及び研究が発展している。こうした作業療法理論の歴史と現状について解説し、代表的な作業療法理論を教授する。伝統的な運動コントロールモデル、生体力学モデルから説き起こし、近年の作業科学の基盤となっている人間作業モデル（MOHO）について概説する。

到達目標

1. 作業療法理論の歴史と発展過程を理解する。
2. 作業療法の理念と構造・機能を理解する。
3. 作業療法実践の実践における理論の応用について理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床的推論力

授業計画

1. 作業療法の理念と実践について
2. 作業療法実践の初期の展開
3. 20C.中期における作業療法実践の発展
4. 現代における作業療法パラダイム
5. 作業療法理論と実践モデル
6. 意図的関係モデル
7. 運動コントロールモデル
8. 感覚統合モデル
9. 機能グループモデル
10. 生体力学モデル
11. 認知モデル
12. 人間作業モデル①
13. 作業療法のリーズニング
14. 活動分析
15. 障害学

成績の評価

70

30

10

20

60

筆記試験 %、レポート2課題 % (%、 %) とし、総合得点で %以上をもって単位認定する。

但し、レポート課題は再提出は無し、筆記試験については再試験1回70点以上を合格とする。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポートに関しては、採点・コメントフィードバックをしてその都度返却する。

成績発表後、筆記試験については答案（本試験のみ）を返却する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

本科目は、教科書に沿った授業展開としているので、当該授業予定の部分を読み、予習をして授業に臨むこと。

履修上の注意

自己活動分析レポート及び授業理解レポートを課すので、ノートテイキングは怠らないこと。

テキスト

ギャリー・キルホフナー著 山田孝監訳「作業療法実践の理論：原著4版」医学書院
(¥4,700)

参考資料

ミラー等著 岩崎テル子等監訳「作業療法実践のための6つの理論」協同遺書出版

キルホフナー著 山田孝監訳「人間作業モデル：理論と応用 改定代3版」協同医書出版

オフィスアワー

月曜日16：30～18：00

研究室・授業用E-mail

4号館 7F 研究室 (718)

k.iwai@kansai.ac.jp

講義コード	2E809011
講義名	日常生活活動学概論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎作業療法学
科目ナンバリング	E2-3104
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 藤井 啓介	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

藤井啓介〔作業療法士〕

目的

日常生活活動（ADL）の概念，リハビリテーション医学における重要性を学び、日常生活活動の範囲・より幅広い日常生活関連動作、QOLなどの概念との関係も理解する。また、作業療法においてADL支援のための生活環境や社会的資源の利用を果たす重要性について理解する。

到達目標

1. ADL・APDL・IADL・QOLの概念や範囲を説明できる。
2. ICIDH, ICFについて説明できる。
3. ヒトの生活におけるADLおよびその他の活動との関係性および重要性を説明できる。
4. ADL支援における生活環境および社会的資源の重要性を説明できる。

授業計画表

回	時限	担当教員	項目	内容
第1回	3時限	藤井 啓介	日常生活活動概論①	ADLの概念・意義・範囲
第2回	3時限	藤井 啓介	日常生活活動概論②	生活関連活動
第3回	3時限	藤井 啓介	日常生活活動概論③	ADLとICF, ICIDHとの関連
第4回	3時限	藤井 啓介	日常生活活動概論④	ICFの構造と理念の理解①
第5回	3時限	藤井 啓介	日常生活活動概論⑤	ICFの構造と理念の理解②
第6回	3時限	藤井 啓介	日常生活活動概論⑥	ADLと生活環境および社会的資源①
第7回	3時限	藤井 啓介	日常生活活動概論⑦	ADLと生活環境および社会的資源②

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

成績の評価

・期末テスト7割，レポート2割，小テスト1割

定期試験、レポート等に対するフィードバック

・定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

・授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

- ・受身ではなく能動的に受講し、積極的に質問等を行うこと。
- ・グループディスカッションをおこなう場合があるため、積極的に意見交換をおこなうこと。

テキスト

- ・配布資料
- ・「新版日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－」（医歯薬出版株式会社）
- ・「ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際」（医学書院）

講義コード	2E810011
講義名	精神疾患とその障害
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎作業療法学
科目ナンバリング	E2-3105
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 和子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

作業療法士

目的

内因性、外因性精神疾患について、その概念、主症状、疾患特性等について概説する。また、それら疾患により生じる障害と、リハビリテーション支援の概略について教授する。精神障害をもつ人の生活上の困難、及び取り巻く状況、わが国及び、諸外国における支援システムについて概説する。精神疾患を持つことによる社会的偏見や、セルフスティグマについて、また、それらを軽減する社会や専門家のあり方についても教授する。

到達目標

1. 三大精神疾患及び心因性障害、外因性精神疾患についての概念、主症状を理解する
2. 精神障害を取り巻く法制度、精神保健制度を理解する
3. 主要な精神科専門治療について理解する
4. 脳機能と精神機能についての知見を理解する
5. 精神障害を持つ人へのリハビリテーションの理念と基盤となる考え方を理解する

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

1. 授業オリエンテーション及び精神医学・執権について荷の復習
2. DVD鑑賞：ドキュメンタリー「精神」
3. //
4. 精神保健制度の歩み
5. 脳機能と精神疾患
6. 精神疾患の診断と評価
7. 精神科専門治療（1）
8. 精神科専門治療（2）
9. 精神障害者リハビリテーションの基盤となる考え方
10. 統合失調症とその障害特性（1）
11. 統合失調症とその障害特性（2）
12. 感情障害とその障害特性
13. 神経症とその障害特性
14. 人格障害とその障害特性
15. 依存症とその障害特性

成績の評価

筆記試験80% レポート課題20% (2題) の総合得点で、60%以上をもって単位を認定する。
レポート課題については採点後の再提出は無し、筆記試験は再試験を1回とし、70点以上をもって合格とする。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポート課題は採点后、その都度フィードバックを行う。
筆記試験は成績発表後、答案(本試験のみ)を返却する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。
該当授業内容について教科書を読み、予習してこること。

履修上の注意

丁寧にノートテイクを行いノート・資料の整理を行っておくこと

テキスト

太田保之・上野武治編「学生のための精神医学第2版」医歯薬出版(¥3,400)

参考資料

上島「国利他著 「精神医学テキスト：精神障害の理解と治療のために」南江堂(2017)
渡辺雅幸著「専門医がやさしく語るはじめての精神医学」中山書店
DVD 水野雅文監修「精神の領域：精神疾患とは・・・」
伊藤順一郎監修「統合失調症の人の気持ちがわかる本」講談社

オフィスアワー

月曜日 16:30~18:00

研究室・授業用E-mail

4号 7F 718研究室
k.iwai@kannsai.ac.jp

講義コード	2E811011
講義名	小児期の疾患とその障害
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎作業療法学
科目ナンバリング	E2-3106
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 原田 智	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

原田 智（医師）・宮下 律子（医師）・中西 直之（医師）・木岡 直美（医師）・栗並 樹里（医師）

目的

小児の特徴は成長と発達である。小児の特性を考慮し、小児特徴的な疾患について臓器別に病態、治療を学習する。

到達目標

1.成長と発達を理解する。2.小児の特徴的な疾患について病態を説明できる。3.疾病の予防、治療、生活指導を説明できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

6/12	1.成長と発達、新生児、先天異常（栗並）
6/19	2.脳性麻痺（木岡）
6/26	3.神経筋疾患（栗並）
7/3	4.骨疾患（原田）
7/10	5.感染症（中西）
7/17	6.ADHD（宮下）
7/24	7.高機能障害（原田）

成績の評価

筆記試験の成績を重視する。但し、レポート提出等を含め総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

講義前にテキストを学習しておくこと。

履修上の注意

講義では、臨床状況を設定した内容まで行う。十分な事前学習が必要である。

講義コード	2E813011
講義名	動作解析学
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎作業療法学
科目ナンバリング	E2-3108
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 藤井 啓介	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

大歳太郎〔作業療法士〕
 備前宏紀〔作業療法士〕
 吉弘奈央〔作業療法士〕

目的

本科目では作業療法評価を実施する基盤として、日常生活における諸動作の分析技能の向上を目指すために行われる。

到達目標

1. 基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、移乗など）の分析ができる
2. 移動（補助具による歩行、車椅子移動も含む）について分析ができる
3. 基本動作についての適切な介助ができる
4. 日常生活活動の分析ができる

授業計画表

回	時限	担当教員	項目	内容
第1回	2時限	藤井 啓介	動作分析概論 ①	重心・支持基底面・力学・関節運動・筋活動・バランス
第2回	2時限	藤井 啓介	動作分析概論 ②	動作分析手順・実践
第3回	2時限	藤井 啓介	動作分析各論 ①	起居動作
第4回	2時限	藤井 啓介	動作分析各論 ②	起居動作
第5回	2時限	藤井 啓介	動作分析各論 ③	起居動作
第6回	2時限	藤井 啓介	動作分析各論 ④	歩行
第7回	2時限	藤井 啓介	動作分析各論 ⑤	歩行
第8回	2時限	藤井 啓介	動作分析各論 ⑥	車椅子
第9回	2時限	藤井 啓介	動作分析各論 ⑦	食事・整容動作

第10回	2時 限	藤井 啓 介	動作分析各論 ⑧	更衣動作
第11回	2時 限	藤井 啓 介	動作分析各論 ⑨	トイレ動作
第12回	2時 限	藤井 啓 介	動作分析各論 ⑩	入浴動作
第13回	2時 限	藤井 啓 介	動作分析各論 ⑪	NIRS①
第14回	2時 限	藤井 啓 介	動作分析各論 ⑫	NIRS②
第15回	2時 限	藤井 啓 介	まとめ	

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

成績の評価

- ・ 期末試験8割，レポート2割

定期試験、レポート等に対するフィードバック

- ・ 定期試験終了後，レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

- ・ 授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

- ・ 実技演習を実施するので，動きやすい服装（ジャージなど）を着用して望むこと。

テキスト

- ・ 配布資料

参考資料

- ・ 解剖学・生理学・運動学に基づく動作分析（医歯薬出版株式会社）
- ・ 観察による運動・動作分析演習ノート（医歯薬出版株式会社）
- ・ 誰でもわかる動作分析（南江堂）

講義コード	2E816011
講義名	作業療法評価学総論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	作業療法評価学
科目ナンバリング	E2-3201
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 和子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

作業療法士

目的

作業療法における評価は、対象者自身の生活との関連を軸に、作業遂行状況に関して、対象者の作業能力、及び疾病や障害の影響を抽出し、作業療法で介入すべき問題点について決定していく指標となる。変化していく疾病や疾患の様相、対象者個々人の特性など人が人を評価することの難しさを踏まえ、本科目では、評価とは何か（目的、評価のための基本技術と方法、各対象領域における評の特性）、得られた評価結果の統合と解釈について教授する。

到達目標

1. 作業療法における評価の目的と意義を理解する。
2. 作業療法における基本的評価法について理解する。
3. 評価結果の統合と解釈について理解する。
4. 評価結果から作業療法治療計画までの道筋を考えられる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

1. 評価とは何か
2. 作業療法介入と評価過程
3. 情報収集
4. 基本的評価の方法 (1)：生理機能①
5. // :生理機能②
6. 基本的評価の方法 (2)：身体機能①
7. // :身体機能②
8. 基本的評価の方法(3)：脳・認知機能評価①
9. // :精神・心理機能評価②
10. 作業活動の評価
11. 評価結果の解釈 (1)：測定値の意味
12. // (2)：観察事項
13. // (3)：面接情報
14. 評価結果の統合と解釈：事例を通して(1)：身体障害
15. // (2)：精神障害
16. // (3)：高齢期障害
17. // (4)：内部障害等

成績の評価

筆記試験70% レポート課題30% (3課題)、総合得点60%以上をもって単位を認定する。
レポートの再提出は無し、筆記試験は再試験1回、70点以上を合格とする。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポートは採点后、コメントをつけて返却する。
成績発表後、筆記試験は答案（本試験のみ）を返却する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。
授業後の復習をしっかりと行い、各回の授業内容を確実なものとしておくこと。

履修上の注意

教員配布の資料が教科書となるので、ファイリングを興し、整理・保管すること。

テキスト

教員作成資料

参考資料

米本恭三他著「リハビリテーションにおける評価 Ver. 2」医歯薬出版（2000）
澤俊二等編「作業療法評価のエッセンス」医歯薬出版（2015）

オフィスアワー

月曜日 16:30~18:00

研究室・授業用E-mail

4号館 7F 研究室 (718)
k.iwai@kansai.ac.jp

講義コード	2E817011
講義名	身体障害作業療法評価学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	作業療法評価学
科目ナンバリング	E2-3202
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 伊藤 恵美	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

伊藤 恵美〔作業療法士〕

目的

基礎運動学Ⅱ、基礎運動学演習、作業療法評価学総論で習得した知識や技術を基に、身体障害領域における主要疾患や病態を持つ対象者の作業療法評価の原理と技術を習得することを目的とする。
講義及び面接・観察・各種検査/測定法を実際に学生間で体験学習することにより授業を進める。

到達目標

到達目標は以下のとおりである。

- ① 事例を想定し、クライアント中心主義と科学的根拠に基づく評価項目を選定できる。
- ② 事例の評価情報から対象者の利点と作業療法士が対応する課題（問題点）を列挙できる。
- ③ 事例検討により評価過程の全容を理解し目標設定ができる。
- ④ 身体障害領域で用いられる各種評価技術を習得し学生間で実施できる。
- ⑤ 評価者としての態度・コミュニケーション技術・リスク管理など臨地の場で応用しうる技術を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

1. 身体障害作業療法評価学概論
2. 上肢の末梢神経障害の評価（運動・感覚）
3. 上肢機能・手の外科領域の評価
4. 脊髄損傷の評価
5. 排泄機能の評価
6. リウマチと関連疾患の評価
7. 骨・関節疾患の評価
8. 症例検討（骨折）
9. 脳卒中 包括的評価・画像評価
10. 脳卒中 運動機能の評価
11. 脳卒中 感覚機能の評価
12. 脳卒中 脳神経の評価
13. 神経・筋疾患の評価Ⅰ（協調性）
14. 神経・筋疾患の評価Ⅱ（バランス）

15.症例検討（脳卒中）

成績の評価

単位認定には2/3以上の出席が必要。課題（20%）・筆記試験（80%）により総合評価する。遅刻（30分以内）は1回につき1点を、欠席及び30分以上の遅刻は1回につき3点を総合得点（100点）から減ずる。尚、3回の遅刻につき1回の欠席とみなす。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

講義前には教科書等を読み理解を深め、学習した評価手技や原理について学生同士で実技練習を含め1講義につき45分以上予習と復習を行うこと。

履修上の注意

動きやすい服装（Tシャツとスウェットパンツなど）で参加の事

テキスト

「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」（医学書院）

オフィスアワー

水曜日 15:00~16:30

講義コード	2E818011
講義名	精神障害作業療法評価学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	作業療法評価学
科目ナンバリング	E2-3203
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 森本 かえで	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

森本かえで〔作業療法士〕

目的

精神科作業療法における評価の特性と必要性を理解することによって、臨床で必要な評価技法を学ぶ。さらに、重要なものについては演習を通して理解を深める。

到達目標

- 1.精神科作業療法において精神機能評価のプロセスを説明できる
- 2.精神科作業療法における評価の目的と留意点を説明できる
- 3.面接、観察、集団の評価の理論を学び、演習を通して理解を深める。
- 4.臨床場面で使用頻度の高い各種検査法の特徴とその実施方法を、演習を通して学び説明できる

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

- 1.オリエンテーション、評価の特性、必要性
- 2.精神科作業療法における評価と作業療法のプロセス
- 3.情報収集と観察法の理論と演習
- 4.面接法の理論と演習
- 5.集団における評価・記録
- 6.社会生活機能評価の解説
- 7.社会生活機能評価の演習
- 8.精神症状評価の解説
- 9.精神症状評価の演習
- 10.パーソナリティ検査の解説と演習
- 11.認知・行為・構成検査の解説
- 12.認知・行為・構成検査の演習
- 13.地域生活支援における評価の解説
- 14.就労支援における評価の解説
- 15.まとめ

成績の評価

- 小テスト（40%）
 レポート課題（10%）
 定期試験（50%）

定期試験、レポート等に対するフィードバック
提出された課題レポートを添削して返却する
自己学習
授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと
テキスト
プリント配布
参考資料
作業療法評価学 第3版（医学書院）精神障害作業療法 第2版（医歯薬出版）
オフィスアワー
金曜日 12:30～13:00
研究室・授業用E-mail
4号館 7階 D714研究室

講義コード	2E819011
講義名	発達障害作業療法評価学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	作業療法評価学
科目ナンバリング	E2-3204
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大歳 太郎	指定なし

目的

人間発達学で学んだひとのさまざまな発達段階とその関連性を発展させ、発達障害領域の作業療法で実施する各種評価についての知識と技術を修得する。

到達目標

- 1 各種評価の意味を理解することができる。
- 2 各種評価を実施することができる。
- 3 関連する書籍や文献などを主体的に調べることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

- 1 発達障害とは
- 2 知的障害とは
- 3 発達検査① (WISC-IV)
- 4 発達検査② (WISC-IV)
- 5 発達検査③ (新版K式発達検査)
- 6 発達検査④ (新版K式発達検査)
- 7 日本語版自閉症スペクトラム指数
- 8 社会性の検査 (S-M社会生活能力検査)
- 9 感覚検査① (JSIR)
- 10 感覚検査② (日本版感覚プロファイル)
- 11 感覚検査③ (日本版感覚プロファイル)
- 12 事例①
- 13 感覚 - 運動検査① (日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査)
- 14 感覚 - 運動検査② (日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査)
- 15 事例②

成績の評価

定期試験70%、課題レポート30%

自己学習

毎回の講義の振り返りを、1コマにつき0.5コマ (45分) 以上行う。

履修上の注意

一部、演習を行う。

テキスト

適宜、紹介する。

オフィスアワー

月曜日 12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

4号館7F 研究室6

講義コード	2E820011
講義名	老年期障害作業療法評価学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	作業療法評価学
科目ナンバリング	E2-3205
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 木村 大介	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

木村 大介[作業療法士]

目的

老年期の身体機能、精神機能の改善を目的とした作業療法を実践する場合、対象者の心身機能を理解するために適切な評価法を選定し、確実に実施できなければならない。そのためには、人の老年期の心身機能の特徴を理解しておく必要がある。本講義では、老年期の心身機能を理解したうえで、老年期の評価法を理解し、実施できることを目標とする。

到達目標

老年期の心身機能を理解することで、適切な老年期の作業療法評価を選定でき、それを実施でき、また、評価結果を解釈することができるまでを目標とする。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容
第1回	木村 大介	老年期作業療法評価総論	高齢化・老年期の心身の特徴・複合障害・リスク管理
第2回	木村 大介	老年期作業療法評価各論①	要介護高齢者・うつ・心理社会面
第3回	木村 大介	老年期作業療法評価各論②	健康高齢者・虚弱高齢者・生活機能
第4回	木村 大介	老年期作業療法評価各論③	認知症高齢者①
第5回	木村 大介	老年期作業療法評価各論④	認知症高齢者②
第6回	木村 大介	老年期作業療法評価各論⑤	認知機能評価・精神機能評価
第7回	木村 大介	老年期作業療法評価各論⑥	行動評価・ADL・IADL
第8回	木村 大介	前半のまとめ	まとめ
第9回	木村 大介	老年期作業療法評価各論⑦	個別活動・集団活動・作業活動
第10回	木村 大介	老年期作業療法評価各論⑧	認知症高齢者への作業療法介入・認知機能

第11回	木村 大 介	老年期作業療法評価各論⑨	認知症高齢者への作業療法・作業活動
第12回	木村 大 介 木村 大 介	老年期作業療法評価各論⑩	認知症高齢者への作業療法・心理社会面
第13回	木村 大 介	老年期作業療法評価各論⑪	介護老人保健施設での作業療法
第14回	木村 大 介	老年期作業療法評価各論⑫	一般高齢者・虚弱高齢者・介護予防・作業活動
第15回	木村 大 介	老年期作業療法評価各論⑬	在宅要介護者への作業療法・作業活動

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

第1回	老年期作業療法評価総論	高齢化・老年期の心身の特徴・複合障害・リスク管理
第2回	老年期作業療法評価各論①	要介護高齢者・うつ・心理社会面
第3回	老年期作業療法評価各論②	健康高齢者・虚弱高齢者・生活機能
第4回	老年期作業療法評価各論③	認知症高齢者①
第5回	老年期作業療法評価各論④	認知症高齢者②
第6回	老年期作業療法評価各論⑤	認知機能評価・精神機能評価
第7回	老年期作業療法評価各論⑥	行動評価・ADL・IADL
第8回	前半のまとめ	まとめ
第9回	老年期作業療法評価各論⑦	個別活動・集団活動・作業活動
第10回	老年期作業療法評価各論⑧	認知症高齢者への作業療法介入・認知機能
第11回	老年期作業療法評価各論⑨	認知症高齢者への作業療法・作業活動
第12回	老年期作業療法評価各論⑩	認知症高齢者への作業療法・心理社会面
第13回	老年期作業療法評価各論⑪	介護老人保健施設での作業療法
第14回	老年期作業療法評価各論⑫	一般高齢者・虚弱高齢者・介護予防・作業活動
第15回	老年期作業療法評価各論⑬	在宅要介護者への作業療法・作業活動

成績の評価

定期試験，授業内試験（4割），小テスト（1割）

自己学習

配布された資料を整理，復習すること，また，次回講義内容に該当する項目をテキストで確認，予習すること。授業1コマにつき0.5コマ（45分）の自己学習を行うこと。

テキスト

「認知症の作業療法 第2版 ソーシャルインクルージョンをめざして」医歯薬出版社，2016

参考資料

教員作成の資料

オフィスアワー

月曜日：16：30～17:30

研究室・授業用E-mail

D715研究室

講義コード	2E821011
講義名	日常生活活動作業療法評価学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	作業療法評価学
科目ナンバリング	E2-3206
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 藤井 啓介	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

藤井啓介〔作業療法士〕
 大歳太郎〔作業療法士〕
 森本かえで〔作業療法士〕
 木村大介〔作業療法士〕

目的

本科目は、作業療法評価で用いられる日常生活活動評価、生活関連活動評価に関する評価について学習する。

到達目標

1. 作業療法士のADLの障害の捉え方を学習する。
2. 日常生活活動の評価について、説明し実施できる。
3. 生活関連活動の評価について、説明し実施できる。

授業計画表

回	時限	担当教員	項目	内容
第1回	2時限	藤井啓介	日常生活活動の評価①	ADL評価法（FIM・BI）
第2回	2時限	藤井啓介	日常生活活動の評価②	ADL評価法（FIM・BI）
第3回	2時限	藤井啓介	日常生活活動の評価③	ADL評価法（FIM・BI）
第4回	2時限	藤井啓介	日常生活活動と生活関連活動の評価①	身体障害領域における疾患特有のADL・IADL評価法
第5回	2時限	藤井啓介	日常生活活動と生活関連活動の評価②	身体障害領域関連のADL・IADL評価法
第6回	2時限	藤井啓介	日常生活活動と生活関連活動の評価③	作業遂行分析
第7回	2時限	藤井啓介	日常生活活動と生活関連活動の評価④	作業遂行分析
第8回	2時限	藤井啓介	日常生活活動と生活関連活動の評価⑤	作業遂行分析
第9回	2時	藤井	日常生活活動と生活関連活	作業遂行分析

	限	啓介	動の評価⑥	
第10回	2時 限	藤井 啓介	日常生活活動と生活関連活 動の評価⑦	作業遂行分析
第11回	2時 限	藤井 啓介	日常生活活動と生活関連活 動の評価⑧	老年期領域のADL評価法
第12回	2時 限	藤井 啓介	日常生活活動と生活関連活 動の評価⑨	精神障害領域のADL評価法
第13回	2時 限	藤井 啓介	日常生活活動と生活関連活 動の評価⑩	発達領域のADL評価法
第14回	2時 限	藤井 啓介	日常生活活動と生活関連活 動の評価⑪	運転関連
第15回	2時 限	藤井 啓介	まとめ	

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

成績の評価

・期末テスト8割，レポート2割

定期試験、レポート等に対するフィードバック

・定期試験終了後，レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

・授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

- ・配布資料
- ・標準作業療法学 作業療法評価学（医学書院）
- ・脳卒中の機能評価-SIASとFIM [基礎編]（金原出版）

参考資料

- ・作業療法学ゴールドマスター日常生活活動学（ADL）（メディカルビュー社）
- ・作業療法学全書 日常生活活動（協同医書出版社）

講義コード	2E822011
講義名	高次脳機能障害作業療法評価学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	作業療法評価学
科目ナンバリング	E2-3207
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 伊藤 恵美	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

伊藤 恵美〔作業療法士〕

目的

脳卒中や外傷など脳損傷に起因する高次脳機能障害（失行・失認・失語・記憶障害・注意障害・遂行機能障害・社会的行為障害など）について理解を深め、その作業療法評価について学習することを目的とする。

到達目標

到達目標は以下のとおりである。

- ①高次脳機能を担う脳の構造と機能を理解できる（画像評価を含む）
- ②高次脳機能障害を作業遂行と関連づけて理解できる
- ③高次脳機能障害に関する評価技術（観察・面接・検査/測定など）を身につける
- ④事例検討により評価過程の全容（評価・利点や問題点の列挙と解釈・目標設定）を理解できる

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

- 1.高次脳機能障害・脳の機能と画像評価
- 2.高次脳機能障害に対する作業療法評価学概論
- 3.高次脳機能のスクリーニング評価
- 4.失語症とその評価
- 5.失行症とその評価
- 6.視覚失認とその評価
- 7.半側空間無視とその評価
- 8.地誌的障害とその評価
- 9.記憶障害とその評価
- 10.注意障害とその評価
- 11.遂行機能障害とその評価
- 12.社会的行為障害・情動・意思の評価
- 13.全般性知能の評価
- 14.右半球障害と左半球障害
- 15.事例検討・まとめ

成績の評価

単位認定には2/3以上の出席が必要。発表及びレジュメ作成（30%）・筆記試験（70%）により

1 30 1 1 30

総合評価する。回の遅刻（分以内）につき点を、回の欠席（分以上の遅刻含む）につき3点を、総合得点（100点）から減ずる。尚、3回の遅刻で1回の欠席とみなす。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

1講義につき45分以上の予習・復習、及び発表準備に充てる事。

テキスト

「標準作業療法学 高次脳機能作業療法学」（医学書院）

参考資料

「標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 脳画像」（医学書院）

オフィスアワー

水曜日 15:00~16:30

講義コード	2E840011
講義名	カウンセリング技法
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	作業治療学
科目ナンバリング	E2-3319
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 和子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

作業療法士

目的

作業療法対象者の抱える困難を理解し作業療法治療介入を行うに為には、対象者との信頼関係が重要です。こうした対象者との治療関係構築のために求められる、面接技法、コミュニケーション技法

対象者の心理理解について学びます。傾聴、対話促進のための技法、面接における目的設定の方法を教授します。また、演習を通して作業療法士自身の自己洞察の方法について体験します。

到達目標

1. 作業療法介入のための面接及びインタビュー（聞き取り）の意義と重要性を理解する
2. コミュニケーションにおける相互作用を理解する
3. 面接において必要となるコミュニケーション技法について理解、一部実践できる
4. 自己開示の水準と取得情報についての倫理を理解する
5. 対象者の心理を理解し、受容と共感の態度について理解する

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

1. 面接とは何か
2. 自由面接演習：演習①
3. コミュニケーションにおける相互作用
4. 傾聴及び会話促進の技法
5. 傾聴及び会話促進の技法演習：演習②
6. 面接及びインタビューの計画設定
7. 目的を持った面接演習：演習③
8. 演習振り返り

成績の評価

①筆記試験20%+演習60%（態度30%+面接技能20%+演習後レポート30%）=60%以上を単位認定とする

演習科目であるので、筆記試験の再試験及びフィードバック後のればPT0再提出は無し。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、筆記試験答案を返却すると共に、レポート・演習については授業内でのフィード

バックを行い、成績不良者は1回のみ再提出を認めるがC以上の評価は得られない。筆記試験の再試験は行わない。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。
特に演習後レポートの返却に伴って、自身での振り返りをしっかり行うこと。

履修上の注意

3人一組で行う演習が主体となるので、遅刻・欠席は厳に慎むこと。
正当な理由の無き欠席・大幅な遅刻については授業後等での演習を認めない。
配布資料は教科書と同等であるので、ファイリングを興し、全て整理保管すること。
授業で配布された資料は、全て教科書同等であるため、ファイルを興し、整理保管すること。

テキスト

教員作成の資料

参考資料

「エビデンスに基づいた患者y中心の医療面接」診断と治療社（2003）

オフィスアワー

月曜日 16：30～18：00

研究室・授業用E-mail

k.iwai@kansai.ac.jp

4号館7F 研究室 (718)

講義コード	2E850011
講義名	国際リハビリテーション学総論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	発展科目
科目ナンバリング	E2-3602
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 伊藤 恵美	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

伊藤恵美〔作業療法士〕

目的

リハビリテーションや健康問題を世界的視野で捉えることは、人々の健康やWell-beingに寄与する作業療法士にとって重要である。本講義ではリハビリテーションに関連するグローバル・ヘルス、健康問題とその格差、リハビリテーションを含む保健医療提供システム、障害者の現状などについて地球的規模で学び、各国でのリハビリテーションの果たすべき役割や作業療法士の活動の場を展望することを目的とする。

到達目標

到達目標は以下のとおりである。

- ① グローバル・ヘルスと開発目標を理解できる
- ② 国際リハビリテーションの概要を説明できる
- ③ 各国の保健医療システムとリハビリテーション支援について理解できる
- ④ 各国の健康問題（格差）とその関連要因を理解し自国の状況と比較検討できる
- ⑤ 国際的に活躍するためのキャリア像と国際機関を説明できる

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／専門知識

授業計画

1. グローバル・ヘルスと開発目標
2. 国際リハビリテーション
3. 保健医療システムとリハビリテーション提供システム
4. 途上国の健康問題・障害者の現状
5. 国際リハビリテーションの実際 1 支援方略（臨床実践・生活支援・管理運営・家族支援）
6. 国際リハビリテーションの実際 2 支援方略（教育・研修・リハ普及・啓発・開発・災害）
7. キャリア・パスと国際機関
8. 各国の健康問題と保健医療システム及び障害者とリハビリテーション(作業療法)

成績の評価

単位認定には2/3以上の出席が必要。レポート（50%）・課題発表（50%）により総合評価する。欠席（30分以上の遅刻を含む）は1回につき3点を、遅刻（30分未満）は1回につき1点を総合点数（100点）より減じ、遅刻3回につき1回の欠席とみなす。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

課題発表とレポートに対し解説を実施する。

自己学習

講義ごとに、1コマ(90分)以上の予習・復習を行い講義内容の理解を深め、課題発表のための調査と準備、レポート作成に1コマ(90分)×7回分の自己学習に取り組むこと。

履修上の注意

国際リハビリテーション各論(海外研究含む)を選択しない学生でも本講義を選択受講することができる。

テキスト

「国際リハビリテーション学」(羊土社)

オフィスアワー

水曜日 15:00~16:30

講義コード	2E851011
講義名	国際リハビリテーション学各論
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類・分野名	発展科目
科目ナンバリング	E2-3603
対象学科・学年	作業療法学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 森本 かえで	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

森本かえで〔作業療法士〕

目的

海外の医療事情や作業療法や文化について理解を深めるとともに、他国の作業療法学科学生との相互交流を体験し積極性とコミュニケーション能力を高め、日本及び国際社会で活躍できる能力を養うことを目的とする。

到達目標

1. 海外の保健・医療・福祉および作業療法教育システムについて理解する
2. 海外の作業療法実践に参加し、その背景にある文化やその国の価値観について考察する
3. 英語を使用する環境のもとで、海外の作業療法学科学生との相互交流を体験しコミュニケーション能力を高める

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／専門知識

授業計画

1. 事前学習 グループ学習とディスカッションペーパー作成：台湾の歴史・文化
2. 事前学習 グループ学習とディスカッションペーパー作成：台湾における保健医療福祉システム
3. 事前学習 グループ学習とディスカッションペーパー作成：台湾の作業療法教育システム
4. 事前学習 研修予定大学及び見学予定施設の概要
5. 事前学習 海外の作業療法学科学生とのディスカッション（インターネットミーティング）
6. 事前学習 海外研修事前セミナー
7. 事前学習 海外の作業療法学科科目での発表資料作成：日本の保健医療福祉システムと作業療法教育システムについて
8. 事前学習 海外の作業療法学科科目での発表練習：日本の保健医療福祉システムと作業療法教育システムについて
- 9～29. 海外作業療法研修
30. 研修後成果発表セミナー

成績の評価

- 事前学習とディスカッションペーパー（30%）
 現地研修（50%）
 課題レポート（10%）
 成果発表セミナー（10%）

定期試験、レポート等に対するフィードバック
提出された課題レポートを添削して返却する
自己学習
事前学習と現地海外研修で予習と復習を行うこと
履修上の注意
英語や英会話が出来なくても参加可能 感染症等で海外研修に参加できない場合は、日本の国際施設見学や課題レポートの提出になる
テキスト
プリント配布
参考資料
国際リハビリテーション学 第1版 (羊土社)
オフィスアワー
金曜日 12:30～13:00
研究室・授業用E-mail
4号館 7階 D714研究室